

JHFREPORT



第1回FAIアジア・オセアニアパラグライディングアキュラシー選手権より（ウインチトローイングで離陸）。P12からの報告をご覧ください。

事故ゼロキャンペーン：チェック5タグを配付



チェック5タグを確認しやすいところに取り付ける。

JHFは「事故ゼロ」をめざしてさまざまな活動を行っていますが、今年に入ってすでに5件の死亡事故が発生しています。ほかにも重大な事故が起きており「いつものようにプレフライトチェックを慎重にしていれば防止できた」のではないかとと思われる事故が少なくないことが、非常に残念です。

そこで、プレフライトチェックの大切さを再認識するために、また、いつでも必ず同じ手順でプレフライト

チェックをするために、フライヤーの皆さんに役立ててもらえるよう「チェック5タグ」を作りました。このJHFレポートに同封しますので、ハーネスや機体の確認しやすい場所に取り付けてぜひご活用ください。文言はパラグライディングに合わせていますが、ハンググライダーやモーターパラグライダーでフライトしている皆さんも取り付けをお願いします。（詳細は10ページをご覧ください。）

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

2018年定時総会を開催しました

6月18日（月）、東京都北区の北とびあ第二研修室において、正会員（都道府県連盟）37名の出席と、委任状5会員、議決権行使5会員の全国47都道府県連盟の参加を得て、2018年JHF定時総会（通常総会）を開催しました。

＊当日朝の大阪北部地震の影響で一部の出席者の到着が遅れたことにより決議数は上記と異なります。

議題は以下のとおりです。

報告事項1：2017年度事業報告

報告事項2：2017年度決算報告・監査報告

決議事項1：貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認



総会の朝の大地震に出席を阻まれた正会員も。

〔賛成37 議決権行使5 合計決議数42で承認された〕

報告事項3：2018年度事業計画

報告事項4：2018年度収支予算

決議事項2：JHF総会傍聴規約改定の承認

〔賛成38 議決権行使5 合計決議数43で承認された〕

決議事項3：JHFおよび都道府県連盟

プライバシーポリシー規約改定の承認

〔賛成38 議決権行使5 合計決議数43で承認された〕

議事進行前に、今年亡くなった奈良県フライヤー連盟前理事長、丸谷政則氏に黙祷を捧げました。



学生連盟から活動報告。協力の要望も出された。

また、第27回国民体育大会愛媛国体のデモスポ部門でパラグライダーアキュラシー競技を担当された、愛媛県ハング・パラグライディング連盟に感謝状を贈りました。

議事に入り、報告事項の質疑及び決議事項1の承認の後、制度委員会の準備による「総会傍聴規約の改定」及び「プライバシーポリシー規約の改定」が承認されました（JHFウェブサイトの「制度総覧」を参照）。

日本学生フライヤー連盟からは、新入部員数は増加の傾向であるが、彼らの定着率が低く会員数の減少に苦慮しているとの報告がありました。また、競技大会運営に関してJHFからのきめ細かいアドバイスを期待しているという要望に、複数の出席者から協力するとの発言がありました。

総会終了後、教員・スクール事業委員会が提示した、パイロット技能証更新制度の導入、タンデム証の規程の改定について、活発な意見交換が行われました。

JHFの2017年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2017年度事業報告」より

2017年4月1日から2018年3月31日まで、公益社団法人としてJHFが取り組んできた事業と収支について報告します。

I 概要

2017年度の会員数は少しずつですが減少を続けており、自然減の数と新規登録者数が均衡に達するまでは今後も減少が続くと思われます。

事故の点ではタンデムで3件の事故が発生しパセンジャーに対する被害の防止が大きな課題となりました。

競技の面では、安全な競技運営のために、ハングライダー競技にライブトラックが導入されました。パラグライダー競技では、Jリーグの参加希望者が増えたために競技に参加したくても出場できないというケースも発生しました。

1. 収支の現状

2017年度は、収入はほぼ予算通りに進みましたが、単年度収支は全般に予算ほど費用が掛からず、積立金・未払い金の精算も影響して黒字になっています。このような推移のため、年度途中に想定していた公益目的事業基金の取り崩しを実施しませんでした。しかしながら、雑損を加味した損益で見ると若干赤字となり、僅かに総資産を減少させました。以前、「あと3年」で財政的な危機が訪れると説明していましたが、その3年が後ろ倒しになったということになります。2018年度事業計画の概要に、フライヤー会員5000人の時代を視野にした活動・運営を行うという主旨のことが書かれていますが、3年後にそういう状況が来た場合には、会費値上げ等の対策が必要になると考えています。（収入・支出の割合は次ページの円グラフをご覧ください。）

2. 組織運営等

- 1) パラグライダー／モーターパラグライダーパイロット安全セミナーを11ヶ所で開催
- 2) 教員検定員による教員助教員更新講習会を20ヶ所で開催、141名が受講
- 3) レスキューパラシュートトリパック更新講習会を8ヶ所で開催、32名が受講
- 4) 教員技能証学科検定については集合研修検定を2月26日～28日に開催、9名受検、3名をパラグライディング教員に認定
- 5) MPG（モーターパラグライダー）浮力体実験安全セミナーを滋賀県近江八幡市で開催

3. 特記事項

- 1) 第40回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
7月29日（土）・30日（日） 滋賀県彦

根市松原水泳場周辺

2) 一般財団法人日本航空協会の航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」に、東京都ハング・パラグライダー連盟(8月5日・6日)、京都フライヤー連盟(9月16日)、広島県ハンググライダー連盟(11月11日)が協力

3) 後援イベント／体験会

●5月27日(土) 千葉県幕張海浜公園 エアフェスタ(ハンググライダー体験)

●10月1日(日) 福島県ふくしまスカイパーク 大空にはばたけ!スカイスポーツ教室(ハンググライダー体験、ハンググライダーVR体験)

●10月28日(土)・29日(日) 東京都代々木公園 代々木公園開園50周年記念イベント(パラグライダー、ハンググライダー体験)

●11月25日(土) 茨城県霞ヶ浦総合公園 FLY AGAIN TSUCHIURA2017(ハンググライダー体験)

4) 第23回スカイスポーツシンポジウ

ムを協賛

12月2日(土) 都立産業技術高専(荒川キャンパス)

Ⅱ 事項別状況

1. 組織

1) 会員数

正会員: 47

フライヤー会員: 7,625名(2018年3月末有効登録数)

賛助会員: 12

2) 役員構成(2018年3月末現在)

理事: 9名(内会長1名、副会長2名)

監事: 1名

2. 会議等の開催

1) 総会

2017年6月定時総会

開催通知: 4月5日(水)

開催日: 6月13日(火) 11:00~17:00

開催場所: 北とぴあ 7階・第二研修室(東京都北区王子)

議案:

報告事項1: 2016年度事業報告について

て／報告事項2: 2016年度決算報告について／決議事項1: 貸借対照表及び損益計算書の承認について／報告事項3: 2017年度事業計画について／報告事項4: 2017年度収支予算について／決議事項2: JHF役員選任について(正会員の投票による現役員選任)

2) 理事会

第1回理事会

5月12日 出席: 理事7、監事1

第2回理事会

6月13日 出席: 理事9、監事1

第3回理事会

7月20日 出席: 理事9、監事1

第4回理事会

10月19日 出席: 理事9、監事1

第5回理事会

1月18日 出席: 理事9、監事1

第6回理事会

3月29日 出席: 理事9、監事1

文書理事会

6月7日、6月19日2件、8月28日、12月11日、1月24日、1月30日2件、3月1日、3月5日

2017年度決算報告より

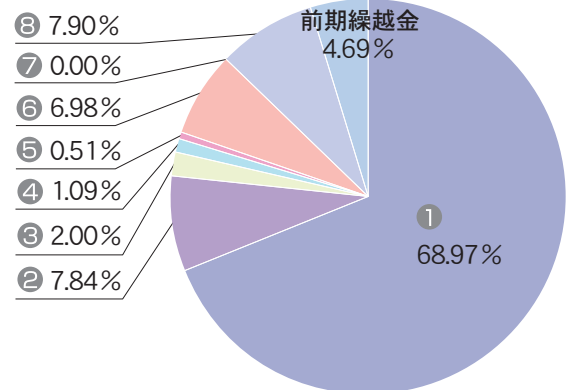
収 入 (単位:円)

① 会費等	37,780,911
② 技能証の発行に基づく収入	4,296,500
③ 競技に関する収入	1,096,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	599,500
⑤ 検定会参加費	280,000
⑥ 補助金	3,826,000
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	4,327,270
前期繰越金	2,569,214
合 計	54,775,395

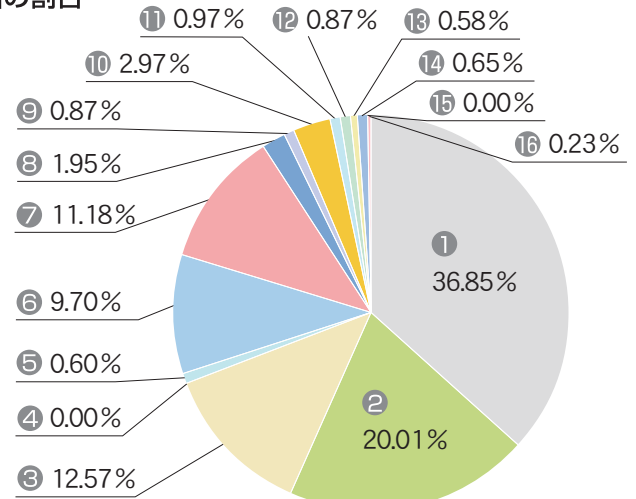
支 出 (単位:円)

① 会員サービスのために	18,344,296
② JHFの維持運営のために	9,959,883
③ 都道府県連盟の補助のために	6,260,473
④ 公益事業の推進のために	0
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	300,070
⑥ 広報・普及活動のために	4,830,615
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	5,565,357
⑧ 競技のために	971,353
⑨ よりよい教習環境のために	433,064
⑩ 委員会活動のために	1,477,228
⑪ 補助動力のために	484,647
⑫ 学生の補助のために	434,009
⑬ 事故調査や安全のために	290,824
⑭ 海外との交流のために	321,214
⑮ 制度のために	0
⑯ 総会のために	112,112
合 計	49,785,145

収入の割合



支出の割合



3) 委員会

■ハンググライディング競技委員会
競技会開催時に実施

■パラグライディング競技委員会
競技会開催時に実施

■補助動力委員会

4月17日、7月22日・23日、11月10日、
1月19日

■教員・スクール事業委員会

12月12日・13日

■安全性委員会

10月12日、2月8日

■制度委員会

12月12日

■ハングパラ振興委員会

11月7日、2月27日

■役員選任実行委員会

11月29日、2月27日

■委員長理事合同会議

2月14日

上記のほか電子メール会議を実施し、
経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

1) 普及振興活動

●JHFレポートを発行（4月、7月、
10月、1月）＊独立行政法人日本スポー
ツ振興センター・スポーツ振興くじ助
成を受けて発行しています。

●都道府県連盟事業費の交付

●日本学生フライヤー連盟への助成金
交付

2) フライヤー会員登録

2017年度新規・更新登録数：5,668名
(2016年度5,712名)

3) 技能証発行

HG（ハンググライダー）：210枚（2016
年度205枚）

PG（パラグライダー）：1,034枚（2016
年度1,035枚）

MPG（モーターパラグライダー）：
17枚（2016年度35枚）

レスキューリパック認定証：39枚（新
規6・更新33）

4) 競技会の主催・公認・後援

HG：17件（内FAIカテゴリー1・2：
4件）

PG：20件（内FAIカテゴリー1・2：
2件）

HG・PG同時開催：6件

5) 競技会の開催

●ハンググライディング：

・日本選手権

2月9日～12日 和歌山県 紀の川フ
ライトパーク 参加55名 不成立

・クラスV日本選手権

11月2日～5日 茨城県足尾山エリア
参加11名 日本選手権者：松田隆至

・ハンググライディングシリーズ（参
加96名） 1位：田中元気 女子1位：
佐野容子

・ハンググライディングフライトコン
テスト

[フリーディスタンス] クラスV 1位：
岡田伸弘（179.31km） クラスI 1位：
氏家良彦（127.40km）

[アウトアンドリターン] クラスV
1位：塩野正光（126.21km） クラス
I 1位：十一誠（72.68km）

[トライアングル] クラスV 1位：松
田隆至（129.54km） クラスI 1位：
牟田園明（76.42km）

[デュレーション] クラスV 1位：岡
田伸弘（5時間46分48秒） クラスI
1位：石坂繁人（9時間16分47秒）

●パラグライディング

・日本選手権

9月15日～18日 茨城県足尾山エリア
参加62名 不成立

・アキュラシー日本選手権

8月25日～27日 岐阜県池田山エリア
参加15名 日本選手権者：和田浩二

・ジャパンリーグ（参加146名） オー
プンクラス1位：岩崎拓夫 オープン

クラス女子1位：平木啓子 スポー
ツクラス1位：中目みどり スポー
ツクラス女子1位：中目みどり

・ジャパン2リーグ（参加72名） 総
合1位：佐野恵治 女子1位：畑中義
美

・クロスカントリーリーグ（参加38名
110本） 1位：二三四藤昭（440.5km）
最長フライト：二三四藤昭（163.0km）

・アキュラシージャパンリーグ（参加
43名） スクラッチクラス1位：岡芳
樹 スクラッチクラス女子1位：伊藤
まり子 ハンディキャップクラス1
位：横井清順 学生クラス1位：該当
者なし チーム1位：のびのび

6) スクール・エリア情報の収集及び
公開

●スクールサイト登録校：163件（内
新規登録校7件）

●エリア情報掲載：176件（削除1件）
7) 海外関係団体活動

CIVL総会 2018年2月1日～4日
ポルトガル 出席者：岡芳樹（デレゲ
イト）、牟田園明（ハンググライディ
ング競技委員会）

8) 世界選手権へのチーム派遣

●第22回FAIハンググライディングク
ラスI世界選手権

参加選手：13名（内7名個人参加）

8月9日～18日 ブラジル

●第15回FAIパラグライディング世界
選手権

参加選手：4名 7月1日～15日 イ
タリア

●第9回FAIパラグライディング・ア
キュラシー世界選手権

参加選手：6名 5月5日～14日 ア
ルバニア

9) その他

●機体型式登録：0件

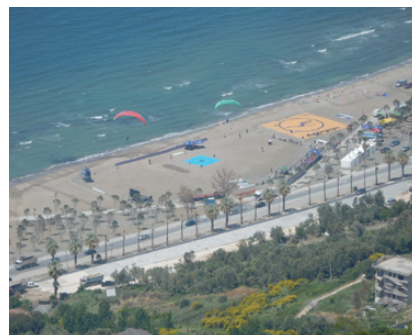
●機体情報登録：0件



HG世界選手権タスク6、田中元気がただ一人ゴール。



イタリア開催、PG世界選手権に出場の日本チーム。



PGアキュラシー世界選手権はアルバニアのビーチで。

2017年度の委員会活動

2018年総会資料「2017年度委員会活動報告補足」より

現在、JHFには八つの常設委員会があり、各委員は連盟活動の担い手として活躍しています。以下は、2018年総会において報告された委員会の活動内容です（事業報告との重複あり）。

ハンググライディング競技委員会

委員長：板垣直樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) 委員会ホームページの運営
大会公認案内、エントリー案内等の更新は随時実施。
- 3) ライトトラックの競技導入により集計の簡略と安全運営の両立。
- 4) 第22回FAIハンググライディングクラスⅠ世界選手権選手派遣（ブラジル BRASILIA） 8月9日～18日 日本からの13名（内7名は個人参加）を含む131名参加 日本代表選手：鈴木博司23位・砂間隆司24位・大門浩二28位・田中元気50位・加藤実60位 鈴木由路115位 個人参加：氏家良彦38位・小高史朗58位・野尻知里84位・岡田伸弘86位・佐野容子97位・名草慧106位・鈴木皓子117位 国別7位
- 5) 2017年ハンググライディング・クラスⅠ日本選手権開催（和歌山県紀ノ川） 2017年2月9日～12日 55名参加 タスク1本成立（日本選手権不成立） 1位：板垣直樹 2位：鈴木由路 3位：砂間隆司 4位：鈴木博司 5位：野尻知里 6位：田中元気 女子1位：野尻知里 女子2位：佐野容子 女子3位：鈴木皓子
- 6) 2017年クラスⅤ日本選手権開催（茨城県足尾） 11月2日～5日 11名参加 タスク4本成立 日本選手権者：松田隆至 2位：岡田伸弘 3位：穴戸俊之
- 7) ハンググライディングシリーズ管理運営 参加人数96名 1位：田中元気 2位：板垣直樹 3位：太田昇吾 女子1位：佐野容子 女子2位：鈴木皓子 女子3位：野尻知里
- 8) ハンググライディングXCリーグに替わりフライトコンテストを開始
[フリーディスタンス] クラスⅤ1位：岡田伸弘179.31km 2位：塩野正光175.41km クラスⅠ1位：氏家良彦127.4km [アウトアンドリターン]

- クラスⅤ1位：塩野正光126.21km 2位：穴戸俊之111.49km 3位：山本剛99.77km クラスⅠ1位：十一誠72.68km 2位：野尻知里69.24km 3位：太田昇吾36.4km [トライアングル] クラスⅤ1位：松田隆至129.54km 2位：塩野正光92.0km 3位：山本剛39.06km クラスⅠ1位：牟田園明76.42km 2位：野尻知里69.8km [デュレーション] クラスⅤ1位：岡田伸弘5:46:48 2位：塩野正光5:32:00 3位：穴戸俊之4:34:02 クラスⅠ1位：石坂繁人9:16:47 2位：鳥羽岳太8:3:39 3位：鳥海真弓6:34:15 9) ハンググライディングシリーズ大会を全てカテゴリー2大会とした。
10) 各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認

パラグライディング競技委員会

委員長：岡芳樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB事務局・ホームページ管理
- 3) 第9回パラグライディング・アキュラシー世界選手権選手派遣（アルバニア、フローラ） 5月5日～14日 総合1位：ツヴェタン・ツォロフ（ブルガリア） 2位：マチアス・スルーガ（スロヴェニア） 3位：ハイピン・チェン（中華人民共和国） 51位：岡芳樹 90位：川村真 103位：小松理樹 121位：古田岳史 124位：山口香代 125位：伊藤まり子 女子1位：ヌナパット・プチョン（タイ） 2位：マルケッタ・トマシコヴァ（チェコ共和国） 3位：リカ・ウィジャヤンティ（インドネシア） 21位：山口 22位：伊藤 国別1位：中華人民共和国 2位：セルビア 3位：チェコ共和国 12位：日本
- 4) 第15回パラグライディング世界選手権（イタリア、モンテアヴェナ：7月1日～15日）へ選手派遣 総合1位：ピエール・レミ（フランス） 2位：ギ・アンダーソン（イギリス） 3位：オノラン・アマー（フランス） およびユリ・ヴィディッチ（スロヴェニア） 65位：廣川靖晃 77位：上山太郎 82位：平木啓子 115位：呉本圭樹 女子1位：福岡聖子（フランス） 2位：

- カリ・エリス（オーストラリア） 3位：シルヴィア・ブッチ・フェラリ（イタリア） 5位：平木啓子 国別1位：フランス 2位：スロヴェニア 3位：スイス 20位：日本
5) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
・Jリーグ（参加人数146名）
[オープンクラス] 1位：岩崎拓夫 2位：上山太郎 3位：呉本圭樹 女子1位：平木啓子 2位：山下敦子 3位：中目みどり [スポーツクラス] 1位：中目みどり 2位：阿知波広和 3位：川名美江 女子1位：中目みどり 2位：川名美江 3位：早坂真有美
・J2リーグ（参加人数72名）
総合1位：佐野恵治 2位：石井旭 3位：畑中義美 女子1位：畑中義美 2位：橋本泉 3位：田村康子
・XCリーグ（38名、110本）
1位：二三四藤昭（440.5km） 2位：多賀純一（404.3km） 3位：中川喜昭（392.8km） 最長フライト：二三四藤昭（163.0km）
・AJリーグ（参加人数43名）
[スクラッチクラス] 1位：岡芳樹 2位：塚原隆信 3位：和田浩二 女子1位：伊藤まり子 2位：平木啓子 3位：山口香代 [ハンディキャップクラス] 1位：横井清順 2位：古田岳史 3位：塚原隆信 [学生クラス] 該当者なし [チーム] 1位：のびのび 2位：ゆるゆる 3位：Airkassy
6) 2017年度日本選手権開催（茨城県足尾山エリア） 9月15日～18日 タスク2本成立／4日 62人参加 規程により日本選手権として不成立。[総合] 1位：中川喜昭 2位：Eliseev Andrey 3位：稲見祐二 4位：和田浩二 5位：廣川靖晃 6位：高杉慎吾 女子1位：中目みどり 2位：平木啓子 3位：高橋美佳 [スポーツクラス] 1位：中目みどり 2位：花村泰明 3位：高橋美佳
7) 2017年度アキュラシー日本選手権開催（岐阜県池田山エリア） 8月25日～27日 8ラウンド成立 49人参加（オープン参加の18名含む） 規程により日本選手権として成立。[オープン]

総合1位：ジャンウェイ・ワン（中華人民共和国） 2位：チャンミン・リー（大韓民国） 3位：ムンソブ・リム（大韓民国） 4位：オドン・ヒョン（大韓民国） 5位：ジフン・ヨー（大韓民国） 6位：キム・キーヒョン（大韓民国） [日本選手権] 総合1位：和田浩二 2位：岡芳樹 3位：横井清順 4位：古田岳史 5位：吉富周助 6位：平木啓子 女子1位：平木啓子 2位：伊藤まり子 3位：小川由希子

安全性委員会

委員長：伊尾木浩二

- 1) 事故情報の収集と管理
・2017年の事故報告内容収集及び報告書作成
・DHV2016年度事故集計報告の翻訳
- 2) 機体登録制度の推進
- 3) PGパイロットセミナー資料作成（2017-2018年度版）2017年春に完成済み
- 4) MPGパイロットセミナー資料監修（2018-2019年度版）2017年度末に完成済み
- 5) PG・MPGパイロットセミナーの推進
- 6月25日：PG 群馬県安全セミナー（約30名参加）
- 7月23日：MPG 琵琶湖安全セミナー（約30名）
- 10月28日：PG 福岡県 久留米市（28名）
- 11月19日：PG 群馬県 安全セミナー（約30名）
- 12月16日：PG 埼玉県堂平スカイパーク（32名）
- 12月9日：MPG 北琵琶湖クラブ（28名）
- 12月10日：MPG 埼玉県東松山エアースタッフ講習（30名）
- 12月3日：PG 宮崎県 都城PGクラブ（17名）
- 12月17日：PG 長崎県安全セミナー（16名）
- 2月18日：PG 山形県安全セミナー（20名）
- 3月17日・18日：PG・MPG 石川県連安全セミナー（45名）
- 6) セーフティーノーツの管理（担当：竹村）
・定期的に管理し、可能な範囲でホームページに反映
- 7) ハング機体整備制度・現状調査（担当：西本）

- 8) 安全性委員会ホームページ状況管理（担当：伊尾木）
・定期的に確認
 - 9) 事故情報アンケート実施（全国スクールおよびクラブエリア宛て）
 - 10) セーフティータグの制作と配布の検討（安全注意喚起用）
・ネームプレートレベルの小さなものをハーネスまたはライザーへ取り付ける。
- [5チェック項目]
- 1 レスキューピン
 - 2 ラインチェック
 - 3 バックル（レッグ→チェスト）
 - 4 無線機（通信→ロック）
 - 5 風の状況

教員・スクール事業委員会

委員長：山谷武繁

- 1) 教員実技検定会 PG2名 HG0名
- 2) 教員学科集合検定（2月26日～28日）参加人数9名
- 3) 教員助教員更新講習会 20ヶ所141名受講
- 4) レスキューパラシュートリパック認定証検定会 3ヶ所（新規6名）
- 5) レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会 8ヶ所 32名受講
- 6) PG教本改訂作業（最終校正段階）
- 7) HG教本改訂作業（校正作業中）
- 8) パイロット証更新制度導入案の作成
- 9) タンデム技能証規程変更案作成

補助動力委員会

委員長：須藤彰

- 1) MPG重大事故情報収集活動
死亡事故5件 4月16日：静岡県（離陸直後墜落） 5月21日：山口県（海上墜落） 6月11日：千葉県（河川墜落） 8月5日：神奈川県（きりもみ墜落） 2月24日：北海道（機材点検事故）
- 2) 安全セミナー開催
7月：琵琶湖浮力実験と安全セミナー
12月：北琵琶湖クラブ安全セミナー／埼玉東松山エアースタッフ安全セミナー 3月：石川県安全セミナー
- 3) 2018年度版安全セミナー資料改善作業
3月に完成・印刷（2018年4月から使用分）
- 4) 下総自衛隊安全会同参加

- 2月 千葉県下総自衛隊基地
- 5) 2018年MPG全国大会計画準備日時・場所・内容の設定（10月予定）

制度委員会

委員長：中瀬誠

- 1) JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
- 理事会諮問事項への答申
- IPPIカードに準じたHG・PG技能証規程の改定検討
- FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究
- フライヤー登録証付き技能証の研究
- ウェブでのフライヤー登録システムの研究（外国人ビジターを含む）
- ウェブでのクレジットカードの支払の研究
- 教本電子書籍化の研究
- 2) 他委員会および事務局との連携
- 役員選任について役員選任実行委員会に協力して検討
- HG教本の全面改訂作業に協力
- 各種制度導入および改定について教員・スクール事業委員会と検討

ハングパラ振興委員会

委員長：井上潔

- 1) パンフレット「ハンググライダーで飛ぼう」制作と発行
- 2) 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討
- フライヤーズボイスの定期的に更新体制の運用
- 飛ぶのを止めてしまった方の状況分析着手
- 学生が卒業して止めてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
- 家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ」（仮称）制作着手
- 3) 体験会等イベントへの協力
- 体験会を安全に実施するための指針検討
- 4) 外部組織との連携
- VR体験に関する大学研究室との協力体制整備
- 5) HG教本／PG教本改訂への協力

役員選任実行委員会

委員長：鈴木由路

- 1) 2017年度総会における役員選任の実施

委員会がめざすこと：2018-2019年度の活動

3月29日のJHF理事会において常設委員会の新委員を選任しました。委員の任期は、この4月1日から2020年3月31日まで。以下は、各委員会の今期の抱負です（委員長は新委員の互選によって決定されました）。

ハンググライディング競技委員会

委員長：板垣直樹



当委員会の主な役割は、日本選手権の開催・支援、ハングシリーズの審査・公認作業・ルール改訂・集計と公認・後援大会の審査・公認作業、フライトコンテストの集計など。

今年はフライトコンテストがフリーディスタンスだけからアウト＆リターン・トライアングル・デュレーションの四部門に増えて2年目の大事な年となる。半年が過ぎフライトコンテストの参加者は増えたが、記録が上位に入らないと申請しない選手が多い。たとえ入賞しなくても選手それぞれの自己記録を申請してほしい。

ハングシリーズは前半の2戦を終えて残すは日本選手権となる西富士を含め3戦。1人でも多く参加者が増えるよう努力したい。

競技参加者はここ数年ほぼ横ばい状態で平均年齢だけが上がっていく。若手選手の育成、増加に注力したい。

パラグライディング競技委員会

委員長：岡芳樹



昨年から、Jリーグは参加希望者が多くなり、セクションをする大会が増えてきました。非常に喜ばしいのですが、セクション方法に問題があるので、安全性を重視しながら、できるだけ新しい選手も参加できるようにシステムに改定していきたいです。またJ2リーグも大会数が増えるようにして活性化を図りたいと思っています。

一方アキュラシーリーグは、大会数が減少し非活性化のスパイラルに入っています。アジアの他の国では活性化しているところ、日本の地盤沈下が止まりません。アジア競技大会をステップボードに、底上げを図りたいところでは。

XCリーグは、単なる距離だけではなくHGで採用しているアウト＆リターンや三角パイロンも含める方向が良いのか検討していきたいと思っています。

安全性委員会

委員長：伊尾木浩二



重大事故撲滅に向けて一層の力を注いでいきます。フライヤーの誰も事故を起こしたいとは思っていませんが、わずかなミスが増えると、いつか大きな

な事故に繋がります。また、機材の進化は凄く、グライダーそれぞれの特性をよく理解して飛ぶことが必須です。

パイロット向けの安全セミナーに新しい情報を発信し、少しでもヒューマンエラーを減らせるよう対策を実施していきたいと考えています。

教員・スクール事業委員会

委員長：北野正浩



ハンググライダー・パラグライダーは奥の深いスポーツですが、人間が元々持っていない能力である「空を飛ぶ」という行為は、本質的に危険を伴います。そこで大事になるのがスクーリングです。委員会メンバーは全員が現役インストラクター。各委員の知恵を集めて、安全なスクーリングを追究していきます。

また、パラ、ハングともに教本の改訂を進めています。初心者はもちろん、長年飛んでいる皆さんにも最新の知識を広め、より多くの人が安全に楽しく飛べるようになることを目指します。

補助動力委員会

委員長：須藤彰



今年は、補助動力委員会として大きな一歩を踏み出したいと考えています。

毎年のように事故が続く嫌な流れを断ち切るために、他団体やフリーの愛好者に呼びかけ、必ず各団体へ登録してもらい連絡網の確立を図りたいのです。これは全愛好者の把握と連絡、そして安全なフライト情報の共有を目的としています。そこで、今年はJHF補助動力全国大会を九州で行い、同時に安全講習や情報共有をすることで会員数の増大、安全意識とレベル向上を推し進めていきたいと思っています。

制度委員会

委員長：中瀬誠



JHFは公益社団法人として、法律、定款、規約、規程、規則などのルールの下で運営されており、制度委員会の役割はJHFに関わるルールの管理、時



今年4月のアジア・オセアニアPGアキュラシー選手権より。アキュラシー競技ではトーイングも少なくない。

代に応じたルール改定、ルールの作成です。地味な役割ですが大切なことと考え、総員5名で活動しています。

今年度から来年度にかけては、大きな制度変更が予定されています。制度変更に伴い他の関係委員会と連携してルールの整備を行う予定です。このルールの変更目的は皆さんの安全を守り、自由なフライトを守ることです。ルールができて皆さんに意識していただかないと役立ちません。ここは皆さんのご協力をお願いします。

ハングパラ振興委員会



委員長：井上潔

当委員会は2014年度に新体制で発足して以来3期5年目になります。無闇に集客を求めるのではなく、今飛んでいる人たちが安心して安全に飛び続けることができる環境作りを第一の目標に掲げて活動してきました。

フライト人口は減少傾向のままですが、エリアや大学サークルによっては増加がみられるところもあります。飛ぶことを止めてしまう方の要因分析は

未だ不十分ですが、生活環境の変化が大きな要因の一つであることがわかっています。重大事故が減らないことも一因です。他委員会とも連携しながら、安全に飛び続けられる環境作りを進めます。

併せて、飛ばない一般の方々に対してこのスポーツの認知度をVR体験会などを通じて高め、これから始めようとする人に対する敷居（家族の反対など）を低くすることを試みます。

役員選任実行委員会



委員長：鈴木由路

当委員会は、私たちがこの先も自由に空を飛べる環境を維持していくためのリーダーを選出する大事な委員会だと感じています。JHFの理事・監事が公平公正に選ばれるよう務めていきます。

来年度の定時総会（通常総会）では役員選任が行われますので、未来のJHFを創る情熱のある方の立候補をお待ちしています。

第5回JHFフォトコン 作品募集！

第5回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストにぜひご応募ください！

JHFは、ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしい、楽しさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる「写真」が、普及と振興のために役立つと考え、フォトコンテストを開催しています。

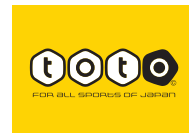
5回目となる今回から、印画紙でのご応募だけでなく、データでのご応募も受け付けます（メール送信可）。賞金は、最優秀賞（1作品）5万円、優秀賞（1作品）3万円、入選（数点）各1万円です。また作品の中から14点を選び2019年JHFカレンダーに掲載します。応募締切は8月31日受付まで（郵送の場合は当日消印有効）。

全国の皆さまからのご応募をお待ちしています。詳しくはJHFウェブサイトをご覧ください。

誰もが世界一になれるわけでもない
誰もが日本代表になれるわけでもない
それでも人はスポーツをする
昨日の自分に追い越されないために
明日の自分を追い越すために
スポーツに鍛えられた人生は
勝っても負けても きっと負けない

スポーツは、自分を超越するためにある。

スポーツくじ



スポーツくじ (toto・BIG) の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-dream.com www.toto-growing.com

19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

JHFの動き

PG日本選手権 (XC)

9月に足尾山で開催

9月21日(金)～24日(月/休日)、茨城県足尾山エリアにおいて『2018パラグライディング日本選手権 in 茨城』を開催します。

詳細はJHFウェブサイトのPG競技委員会のページでご確認ください。

<http://pgc.hangpara.jp/>

HGクラスV世界選手権

マケドニアで7月21日まで

7月8日(日)に始まったクラスV世界選手権は、いよいよ終盤。結果をJHFウェブサイトでお知らせします。

MPG全国大会

10月に久住高原で開催

10月6日(土)・7日(日)に、阿蘇くじゅう国立公園内久住高原で『補助動力パラグライダー全国大会 in 久住高原』を開催します。(8日は予備日) 主催：補助動力パラグライダー全国大会実行委員会

後援：公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟、久住高原天空のプロムナードウォーキング大会実行委員会

参加申し込み等の詳細は、決まり次第JHFウェブサイトでご案内します。多くのご参加をお待ちしています。

**補助動力パラグライダー
全国大会 in 久住高原**
2018.10.6SAT → 10.7SUN



雄大な阿蘇くじゅう国立公園を眼下に！



JHF
Japan Hang & Paragliding Federation
会長：徳田 隆夫 (JHF・JHPF代表理事・久住高原天空プロムナードウォーキング実行委員会代表)
副会長：山本 浩二 (JHF代表理事・久住高原天空プロムナードウォーキング実行委員会代表)
事務局長：山本 浩二 (JHF代表理事・久住高原天空プロムナードウォーキング実行委員会代表)

学連ニュース

●JSFFの活動

日本学生フライヤー連盟 (JSFF) の今年の活動スローガンは、例年掲げている「活動の透明化」に加えて、「大会の活性化」を目指します。更新頻度の低いホームページを整備し、学生の需要に応えた情報を発信できる体制、企画を作ります。また、大会を盛り上げることで地区間の交流を深めるだけでなく、個々のフライトスキルを向上させることができます。スキル向上によって事故率を低下させ、楽しみ方の幅も広がり、卒業後にやめてしまう人数を抑えることにも繋がると思っています。(JSFF理事長 墨幹)



新歓活動：東京の河川敷で浮遊体験を行った。



新歓活動：近畿ではタンデム体験も。

●新歓活動の報告

今年も各大学で新歓活動を行いました。行われた活動は大学内で開かれた「ブースでの説明」、新入生を招いての「食事会」、新入生を活動場所に招いての「体験会」などです。ブースでは活動内容の説明をしたり、製作したPVを披露したりしました。食事会では新入生と食事をしながら、サークルの雰囲気を感じてもらいました。体験会ではHG・PGの浮遊体験を行いました。中には新入生とタンデムフライトを行った大学もありました。また、SNSを活用して。サークルの魅力を宣伝しました。

新歓活動の甲斐もあり、九州地区17人、中国地区21人、関東地区66人、関西地区7人の新入生の入部報告があり、その他の地区でも多くの新入生が入部しました。今年の反省を来年の新歓活動にも生かせればと思います。(JSFF広報 早田星也)

●夏の学生大会・合宿の紹介

夏の学生大会・合宿を紹介します。どれもとても楽しいイベントなので皆様のご参加をお待ちしています。

・尾神岳Paraglider Student Cup (8月21日～23日)

尾神岳は新潟県にある日本海に面した台形の山で、リッジ、サーマルソアリングがしやすく、山頂が広いのでテイクオフ場にランディングもできます。また日本海に沈む絶景の夕日を楽しむことができます。

実行委員長上石さんの意気込み

「第一に、怪我のない大会にすることを優先します。その上で全クラスの人たち全員が楽しめるよう努力したいです。」

・nasa STUDENT CUP (8月29日～31日)

足尾山はフライト確率が高く、晴れば良い具合のサーマルであがり、風が強いとリッジで無限に飛ぶことができます。ランディングが少し難しいですがとても楽しいエリアです。

実行委員長増田さんの意気込み

「みんなで楽しくソアリングをして競いあえればいいと思います。昨年は練習日しか飛ぶことができなかったの、今年はたくさん飛びたいですね。」

・鳥取砂丘合宿 (9月4日～7日)

昨年は講習生と上回生含め、HG・PG合わせて約150名の学生が参加しました。新入生の基礎を固め、山飛びに向けてのスキルアップを図る合宿です。また全国の学生フライヤーと交流し、繋がりをもつ貴重な場ともなっています。(JSFF広報 是永珠咲)



最大規模となった昨年の砂丘合宿。

チェック5タグで安全を再確認する。

JHF安全性委員会

事故を起こさず安全に飛び続けること。それはフライヤーなら誰もが願うことでしょう。しかし、事故はなくなりません。今年前半だけで、すでに5件の死亡事故が発生しており、そのうち1件はハーネスのレッグベルト締め忘れによるものです。またパイロットは怪我で済んだものの重大なフックアウト事故もありました。

何とか事故に歯止めをかけたい。

フライヤーひとりひとりに「気をつけてください!」と伝えたい。

そこで、JHFは7月31日から8月19日まで、事故ゼロキャンペーンを実施することにしました。

*福岡県北九州市では、JHF日本選手権開催の前年、1988年のパラグライダー選手権開催を記念して7月31日を「パラグライダーの日」としています。パラグライダーが始まって間もない時代を思い、初心に立ち戻って安全を考えようと、キャンペーン開始をこの日にしました。

事故ゼロキャンペーン

いつでも安全を第一にフライトに臨

むのは当然のこと。キャンペーン期間中、フライヤーの皆さんがいつも念頭に置いている「安全」を、さらに強く意識してもらおうと、チェック5タグを作りました。このJHFレポートとともに全フライヤー会員の皆さんのお手元に届けます(「サンプル」と記した封筒に入っています)。まずはチェック5タグをハーネス等に取り付け、常に行っているプレフライトチェックの手順を再確認してください。もし、その時々でチェックの順番が違うと、大きなミス、事故につながりかねません。今後は必ず同じ順番でチェックをしてください。もちろん、セルフチェックだけでなく、クロスチェックを行うことは鉄則です。

そして、フライト準備からランディング、機材を収納するまで、いつも行っていることに抜け落ちていることはないか、現在の機材に適したやり方なのか、じっくり見直しをしてください。このキャンペーンが、フライトエリア等でインストラクターや他のパイロットと意見交換をする機会となるよう願います。

2018年前半の重大事故

今年1月から6月までに、下記の5件の死亡事故が起き、6名の方が亡くなっています。「二度と同様の事故を起こさない」ためにどうしたらいいのか、フライヤー各人が自分に問いかけていくことが必要でしょう。

■2月24日 北海道 モーターパラグライダー 駐車場で、安全ガードを付けずにエンジンを始動させ、回転するプロペラに接触したと推測される。

■3月28日 和歌山県 パラグライダー 飛行中にレスキューパラシュートが落下しツリーランディング。救助を待たずにザイルで降りる際に落下したと見られる。

■5月23日 静岡県 パラグライダー 競技に参加。ゴールした後に墜落。

■6月17日 福島県 パラグライダー 当日2本目のフライト。ゲットアップ式ハーネスのレッグベルトを締めずにテイクオフ。約10分飛行後に落下。

■6月30日 群馬県 パラグライダー タンデム飛行中に墜落。パッセンジャーも死亡。

フックアウト事故

4月30日、熊本県では、死亡事故となっても不思議ではない、ハンググライダーのフックアウト事故が発生しました。やってはいけないスイング

チェック5タグの取り付け方



1. 短い結束バンドをタグの穴に通して輪を作る。



2. 輪に長い結束バンドを通してハーネス等に取り付ける。

チェック5タグは、プレフライトチェック時に毎回使うものです。以下のようにハーネス等に取り付け、タグを読み上げ、プレフライトチェックを確実にを行ったことを見直してからフライトしてください。

1) タグの穴に、短い結束バンドを通して直径10mm程度の輪にします。余分な部分はハサミでカットしてください。(写真1)

2) 輪にした短い結束バンドに長い結束バンドを通して、ハーネス側のカラビナ取り付け部分に固定します。強く締めすぎないように注意してください。(写真2)

ハンググライダー、モーターパラグライダーは確認しやすい場所へ取り付けてください。



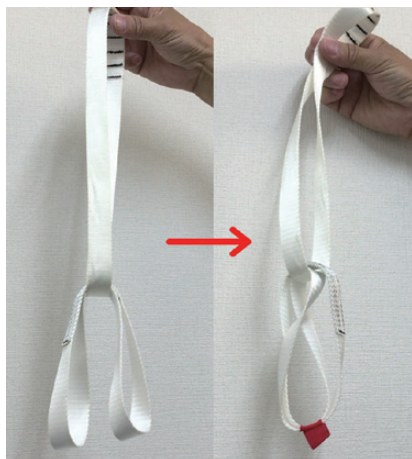
JHF 公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟

ライン2本使いにより、スイングラインの異常がプレフライトチェック（機体にぶら下がってのチェックも行った）時に発見されず、テイクオフ。フライヤーは飛行中に機体から落下し、複数箇所の骨折と打撲傷を負いました。岩上に落ちなかったこと、落下後も意識がはっきりしており救助者と携帯電話での連絡がついたこと、ヘリコプターによる吊り上げ救助が可能な場所がcaろうじてあったことなど、敢えて言えば「運」が重なった結果でした。

かつてのフックアウト死亡事故から、各エリアではプレフライトチェックでスイングラインの点検を強化して行ってきましたが、このような事故が起きてしまいました。パラグライダーのレッグベルト締め忘れと同様に、点検の在り方を再確認していただきたいと思います（下記の茨城県板敷山のエアリアルルールを参考にしてください）。また、長さ調節のためにスイングラインを2本使うこと（下の写真）は絶対にしないでください。

板敷エリアの場合

ハンググライダーの茨城県板敷山エリアでは、エリア開設以来死亡事故が無いことを誇りにしていましたが、二十数年前に発生したフックアウトによる死亡事故を契機に、クロスチェック（ハングチェックとも呼び、カラビナをかけてぶら下がる。その際に機体を誰かに支持してもらい、その人にハーネスと機体の状態を見てもらう。自らも声を出して、ヘルメットの顎ひも、レッグベルト装着等を確認する）をルール化しました。それ以来、全員がクロスチェックを励行し、フックアウト死亡事故の再発を防いでいます。



やってはいけないスイングライン2本使いの例。



板敷山エリアでは、ルールを定めクロスチェックを励行している。（写真は記事の内容に関係ありません。）

板敷山エアリアルルール（2017年5月8日改定）の抜粋

2. 飛行前の安全確認

安全を最大限確保するため、必ずランチャー台の入り口において他の人に機体を支えてもらった上で、機体にぶら下がるハングチェックを行い、自分自身でカラビナが確実にかかっていることを確認すること。テイクオフの動作に入る前にまずテイクオフの宣言を行った後、他のランチャー台からテイクオフする人がいないことを確認した後でなければ、テイクオフしてはならない。以下にその手順を示す。

「飛行前の安全確認」（テイクオフへの5ステップ）

〔ステップ1〕機体のプレフライトチェック。

〔ステップ2〕カラビナをかけ、ぶ

ら下がってハングチェック。

〔ステップ3〕声を出してカラビナとレッグストラップを目視確認。

（例）「カラビナよし！」「レッグストラップよし！」

〔ステップ4〕声を出してテイクオフの宣言。

（例）「西、行きます！」「メイン、出ます！」

〔ステップ5〕他のランチャーからの返事を確認してからテイクオフ。

この「飛行前の安全確認」を怠ることは、危険行為とみなされ、1ヶ月のフライト停止処分の対象となる。

楽しく安全なフライトとなるよう、お互いに注意・協力を全うすること。

誰でも簡単に事故目撃レポート

起きてしまった事故を二度と繰り返さないために、JHFでは安全性委員会が中心となって事故の報告をまとめ、フライヤー会員の皆さんに注意喚起する活動を続けてきました。

ところが、報告されない事故があります。理由は「面倒だから」でしょうか。「どうしていいかわからないから」かもしれません。そこで、事故の目撃情報をJHFウェブサイトから簡単に報告することができるようにしました。事故を目撃したら、どなたでも、会員トップページから「事故情報収集ページ*」に入り、日時や場所、事故の状況などをわかる範囲で入力、送信して

ください。個人名を入力する必要はありません。

報告というと気後れしてしまいそうですが、同様の事故を繰り返さないための情報集めに、ご協力をお願いします。情報を共有することで事故を減らしていきましょう。

フライヤーが怪我をしていなくても、機体が壊れていなくても、また、事故にはならなかったけれどヒヤリとしたりハッとしたインシデント体験についてもぜひお知らせください。

*事故情報収集ページ：JHFウェブサイト、会員トップページの左上に入口があります。

終始リードを守ったタイを中国が猛追。

4月3日-12日 タイ サランブリー州 Pa Sak Jolasid Dam 報告: チームリーダー/選手 岡 芳樹

4月3日

早朝タイ着の横井選手、古田選手、タイ在住の古賀選手に、午後着の平野選手と私が合流。日本チーム全員が揃ったところで無事到着を祝して乾杯。

4月4日

ダムをせき止めてできた湖のほとりにある大会会場へ。約450m四方の大きさで普段はパラモーター用飛行場。今回の選手権はトーイングで行うことになっている。場所としては申し分ないが、風の向きと強さが安定していないと思ったほど飛べないかも。本日はトーイング初心者優先の練習となり我々は飛ばず、本部でレジストレーションと機材チェック。日本チームは何事もなく無事終了。

4月5日

非公式練習。途中風向が変わったためトーイングマシンの移動はあったものの、天気も良く風も悪くないコンディションで、全員2本の練習フライトができた。20時から本部で全体ミーティング。スタート順のくじ引きで日本は6番目に。今回の選手権はアジアだけではなくオセアニアも巻き込んでボリュームアップを狙ったのだが、残念ながらオセアニアからの参加はなし。しかし、これまで参加したことのないラオス、モンゴル、イランが初参加した。最終的には、常連の国、中華人民共和国、タイ、インドネシア、日本を含め、マレーシア、シンガポール、台湾、香港、カザフスタンで合計12の国と地域が参加。選手は総勢51名。ちょっと寂しい感じだが、それだけフライト本数が稼げるので良いかも。



開会式に臨む日本チーム。この後、前倒しで競技開始。

4月6日

9:30に開会式がスタート。これまでの選手権よりあっさりと終了。タイではもうすでに真夏の気候。日向に出ているとめっちゃしんどい感じ。トレーニングフライトを11:45にスタート。晴れで風はW寄りの2~3m。2時間弱で全員フライト終了。明日、明後日の予報が悪いので、公式競技ラウンドをスタートすることに全チームが同意して、14:30に公式競技を開始。

風はNWの2~3m。サーマルあり。27番目の選手が飛んだところで風向が変化し、しばしウエイティング。南の4~5mに対応してウインチとスタート場所を移動し15:40に再開。16:30に全員フライト終了。タイ1位、インドネシア2位、中国3位、日本4位。

4月7日

昨夜襲った強風と強雨のため本日の競技は早々とキャンセルに。

4月8日

強風の天気予報のため1時間遅れの8時に競技場に集合。晴れ。ENE~NEの5~6m。少し強い感じ。この先弱まることもありうるとウエイティングを繰り返すが、風はピッチを上げ、飛べそうな雰囲気が出てこない。これ

以上は待てない15:30のチームリーダーブリーフィング直前にダミーが飛び、風は強めだが行けそうだと判断。15:40、昨日は到着していなかったため飛べなかったラオスの選手がトップにスタート、続いて第2ラウンドがスタート。

風はNEの4~5m。各選手順調に高度を取っている。ラウンドが進むにつれ、風は2~3mに弱まり、サーマルもほとんどない絶好に近いコンディション。日本チームが振るわない中、最終選手の高賀選手が今日初となるDC(ゼロ)スコアをたたき出す。タイ1位、中国2位、台湾3位、日本4位。

4月9日

快晴。ENEの2m。第3ラウンド開始。時間とともに風速は3~4mにあがり、ラウンドが終了する頃にはサーマルバンバン状態。かなり波乱の様相だが、キレイどころは何とかまとめてバッドスコアはもちろんシングルスコアをたたき出す。中でもタイのタナパット選手は、2度目のDC。一方日本チームは3人が痛恨の500点を出してしまい順位を5位に落としてしまう。

第3ラウンド終了とともに風向が不安定となり、迷った末にN寄りに合わせてウインチを移動し、第4ラウンド



上位者はシングルスコア連発で、最後には個人1位が同率、3位も同率という大接戦に。

をスタート。結構風が強くリランチになる選手がたくさん出る。その中にショートして500点となった古賀選手も含まれたが、リランチのフライトも残念ながらショートで500点は変わらず。私も強風に阻まれショートしてしまっただが、この時は風速7mを超えていなかったとのことでリランチできず500点となり、日本チームにとってはまたしても最悪の結果に。

続けて第5ラウンドをスタートするもテイクオフの風向が真横になるときもあり、またサーマルがバンバンでランディングの風向も180度変化する危険な状態となったため、セーフティコミッティーが招集され、1～6番の選手が飛んではいたが、それを全てキャンセルにして、ウエイティング後に最初からスタートすることに決定。

風向がNW寄りとなったためウインチを移動。風速は4～5m。16時少し前に第5ラウンド開始。日が傾くにしたがってサーマルも減少し、最後のほうは全くなり、シングルスコアが当たり前のような絶好のコンディションとなる。終わってみれば第5ラウンドはどのチームもパッドスコアでまとめ順位に変動は起きなかった。明日も今日と似たような予報なので、サーマルコンディションで何とかパッドスコアを出して点差を縮めたい。タイ1位、中国2位、台湾3位、日本5位。

4月10日

8時に競技場集合。快晴。SE0.5m。風向が不安定でウインチをどの方向にセットするか判断しかねウエイティング。9時から第6ラウンドがスタート。Wの1m。サーマルは少し出ているが、それほど影響はない。ウインチとテイクオフを移動することはあったが、ほぼ順調にラウンドが進む。時間が経つにつれサーマルは活発になり、選手を苦しめるが、キレイどころは

きっちりとコントロールしパッドスコア、しかもシングルを決めてくる。

今日は最高の4ラウンドを行うことができた。これで9ラウンドが終了しあとは3ラウンドを残すのみ。

予定では明日2ラウンドを終了し、最終日にファイナルラウンドを行う予定。かなり充実した選手権になりそう。9ラウンドを終了して、日本は5位と変わらず、台湾に少し水をあげられた感じ。あと3ラウンドでどこまで迫れるか。

4月11日

9時に競技場集合。快晴。SWから風向がS寄りに変化し始めたため、ウインチとテイクオフを移動して10時に第10ラウンドがスタート。Sの4～5m。サーマルありコンディション。

ターゲット真上で高い位置から無理やり降ろした選手がストールに入り中断するが、その後は順調に進み11:40に終了。個人ではタイのタナパット選手が1位をキープ。それを中国のジャンウエイ選手が1点差で猛追。国別ではタイが1位。2位中国が追うが点差は30点ほど。日本チームは3位台湾、4位インドネシアに続く5位と低迷。

風向がW寄りになりウインチとテイクオフを移動して、12:30に第11ラウンドをスタート。ほぼ快晴で積雲少々。W～NWの3～5m。サーマルバンバン。それでも上位者はシングルスコアを連発し14時に終了。

個人戦ではタナパットとジャンウエイ選手が同率首位、3位にもタイのジラサック選手と中国のホンジイ選手が同率というすごい結果に。国別ではタイの首位は揺るがず、2位中国、3位台湾、4位インドネシア、5位日本と続く。日本チームは台湾に100点ほど近づいたが、差は依然大きく、国別の表彰台は絶望となった。またしても古田選手がDCスコアを出したのがせめ



トーイングのウインチ、ロープ回収スタッフも大活躍。

ても救い。女子ではタイのチャンチカ選手が首位、それを中国の新人ジンウエイ選手とタイのヌナパット選手が追っている。

4月12日

ついに最終日。快晴。S～SSEの3～4m。8:15、現在の成績の逆順でスタート。風が強いため、ラインの半分も引かないところで皆十分な高度となり、早めにリリースする。風速があがり半数以上の選手がリランチになる始末。9:30のチームリーダーブリーフィングで、残り時間を考慮し第12ラウンドのキャンセルを決定。また、個人総合で1位と3位が2人ずついるため、ルールによってタイブレイクのフライトをするかどうかを検討したが、風は全く弱る気配がないので、タイブレイクフライトは行わないことに。

この結果、ルール上、0cmの数が多いほう、それでも同じ場合は1cmの数が多いほう……で決定することとなり、1位は中国のジャンウエイ、2位がタイのタナパット、3位が中国のホンジイ各選手となる。女子は1位がタイのチャンチカ、2位が中国のジンウエン、3位がタイのヌナパット各選手。国別では1位タイ、2位中国、3位台湾、4位インドネシア、5位が日本となる。

閉会式が16時から競技場で行われ、タイでは一番暑い時期でもあり、スピーチは非常に簡潔なものですぐに表彰式となった。



個人トップ3。中国のジャンウエイが逆転勝利。



女子トップ3。タイのチャンチカが初回女王。



国別1位タイ、2位中国、3位台湾。

アキュラシーのおもしろさは やってみなくちゃわからない

その2

アキュラシー競技、あなたもやってみませんか？とスタートした第1回掲載から月日が経ってしまいましたが、ようやく復活です。今回から、パラグライディング競技委員会の鈴木洋史さんにアキュラシーのおもしろさを語ってもらいます。「ランディングするだけの競技じゃつまらない」なんて言わないで、まずはご一読を。

ここまでのめりこむつもりでは……



全国フライヤーの皆さん、はじめまして。8年ほど前に宮城県白石でパラグライダーに出会い、アキュラシーを始めて5年の鈴木です。

宮城県は2006年に日本で初めてアキュラシーFAIジャッジセミナーが開かれ、翌年に第1回の日本選手権が開催された、いわば日本アキュラシー発祥の地。そのせいか、アキュラシーをやっている人が多く、その人たちに唆されてこの世界に足を踏み入れたわけですが、正直なところ、自分が夢中になっていることに驚いています。ここまでのめりこむつもりはなかったんですけど……。

それで、アキュラシーの魅力について皆さんにお話しするこの機会に、なぜ自分が「はまった」のか、あらためて考えてみました。

まず第一に、上達したなと実感できたこと。僕はパラ初級の頃に、基礎技

術を学ぼうとアキュラシーを始めたんです。最初は10m円内に安全に降りるのもたいへんというレベル。それが練習や競技の経験を積むにしたがって、平均10m円内から5m円内へというようにレベルアップするのが実感できた。誰だって上手くなったと手応えがあればモチベーションが上がりますよね。気付いたらすっかりアキュラシー愛好者になっていました。

次に、アキュラシーに限ったことではないけれど、競技に参加すると順位がついて、向上心をあおられること。技量の近い選手、つまりライバルとの競り合いがあると、たとえトップ争いでなくても俄然楽しくなって、次のラウンドは絶対に順位を上げるぞ！なんて熱くなる。もちろん悔しい思いもたくさんしますが、楽しさが勝って現在に至っています。

……というわけでアキュラシーにはまった僕から皆さんへのメッセージ。「アキュラシー、騙されたと思ってやってみませんか？」

競技はハードルが高いなあと考えている初級者でも、クロスカントリー競技をバリバリやっているベテランでも、アキュラシーをかじってみたら、きっとおもしろいと思います。それぞれの力量に応じて、基本に立ち返ったところで学ぶこと、ステップアップできることがきっとありますよ。いつでもお待ちしております！

アキュラシーってどんな競技？

着陸精度を競うのがアキュラシー。それは皆さんご存知のとおりですが、ここでさらっと復習しましょう。

●日本では2006年にリーグ戦が始まったパラグライディングアキュラシーは、飛んできて最初に足裏が接地したところがターゲット中心に近ければ近いほど上位という、わかりやすい競技。

●公式大会での得点計算方法は、中心から接地点までの距離が1cm=1ポイントで換算されるという、これまたわかりやすいもの。中心の直径2cmのデッドセンター（DC）を踏めば、最高点の0ポイント。ただし、バランスを崩して足裏以外で接地（転倒など）したり、半径10mゾーンをはずしたりすると、最大点つまり最低点の1000ポイントがついてしまう。

●クロスカントリー競技と違って、アキュラシーではポイントが低いほど好成績。レベルの高い大会では、一桁のポイントが突出する。

●5ラウンド（5本）以上の競技フライトが成立すると、その選手の最低得点が消去される。もし転んで1000ポイントをもらっても、一度だけなら挽回のチャンスがあるということ。

●ある程度の実力*があるフライヤーなら誰でも競技に参加できる。特別なレーシング機材や装備も不要。気象条件に恵まれれば1日に何ラウンドも飛べる。

*JHFパラグライディングアキュラシージャパンリーグ（PAJL）の大会は、技能証明した教員またはエリア教員の承認があればノービスパイロットから参加できる。もちろんJHFフライヤー登録が有効であること。

●観戦する人たちにも、どの選手が高得点を獲得したのか、一目瞭然。その場で順位の変動もわかるので、広く一般にパラグライディングを知ってもらうのにもアキュラシーはうってつけ。この夏インドネシアで開催のアジア競技大会**でもアキュラシー競技が行われる。

**アジア競技大会（前号まで「アジア大会」と掲載）は、アジアオリンピック評議会（OCA）が主催するアジア地域を対象にした国際総合競技大会。原則4年ごとの開催で、アジアのオリンピックともいわれ、今回はXCとアキュラシー競技が行われる。



鈴木さんも出場した第3回PGアキュラシーアジア選手権より。アキュラシー競技の楽しさをあなたもぜひ！

2018年1月2日 オーストラリア Forbes-Manilla 393.7km

サーマルの続く限りどこまでも……HG日本記録更新

報告：服部良亮

今年1月、オーストラリアでの大会中、京都府の服部良亮選手が直線距離393.7kmを飛行。2年前に同じ大会で和歌山県の佐野容子さんが更新した日本記録(367.6km)を塗り替えました。その2日後の飛行とともに、5月14日、日本航空協会によって、クラス1日本記録として認定されました。

直線距離(393.7km) 1月2日飛行
目的地直線距離(388.8km) 同上
三旋点距離(166.4km) 1月4日飛行

オーストラリアのForbesで開催される「Forbes Flatlands」。毎年好条件で長距離を飛べるこの大会だが、今年は例年に増してコンディションが良すぎ、タンブルを含むインシデントが複数件発生するなど戦々恐々の幕開けとなった。

そんな中での大会5日目。この日は南西風がだんだん強まり、サーマルトップは3,000~3,500m、上昇率+5 m/s以上の予報。最高の条件ということで、タスクはForbesから風下のManillaまでのストレート389km！ ハンググライダーの競技タスクとしては史上最長となる距離(これまでの最長は、2年前の同じ大会での365km)。ゴールできるイメージがあまり湧かないが、「飛べるだけ飛ぶしかない」という気持ちで臨む。

エアロトローイングでテイクオフし、13時に高度2,800mでパドック(トローイングエリア)をスタート。20km程は他のグライダー数機と共に進んだが、その後すぐに単独行に。やはりサーマル条件が強く、乱流を警戒して頻繁にVGを緩めるためにペースが上がらない。ともあれ序盤は前日のタスクと同じコースだったため、単独でも余り迷わずスタッ

クもせず、高度2,600~3,500mを維持して130km地点辺りまで順調に進む。しかしそこからは積雲とタイミングが合わずに空振りが続き、170km付近で降りそうな高度に。降ろし易そうな農場に目星をつけてハーネスのファスナーを開けたところでヒット。サーマルの真っ只中に降りたくない一心で、対地400mから慎重にリフトを追いかけて、高度3000mまで復活。これでまた進める。

ここでの失敗から、以降は積雲とのタイミングの測り方を修正。真昼を過ぎてリフトが穏やかになってきたのもあり、また高度2,600~3,500mをキープハイで進み、自己ベストとなる260km地点をクリア。そこからも先のことは考えずにただ雲を観察・コースを判断・機体を揺らさずグライド・空気を感じてリフトサーチ・最大効率で上昇、と淡々と繰り返しながら進む。緊張や焦りがあまり無く、かと言って楽観しすぎるでもなく、ちょうど良い精神状態で飛ぶことができた。

そのうちに300kmを越え、気付くと残り距離が70kmほど。この先はしっかりした積雲の列が無くなり心許ないが、強い追い風と夕方の穏やかなリフトのおかげで進みが良い。ゆっくりグライドしても対地80~90km/hでL/D20~30と、着実にゴールが近づく。ゴール手前のラストサーマルでようやく他のハングに再会。共に上げて、ゴールまで28km、対地高度2,300mからファイナルグライド。弱いリフト帯が続き、最後は高度を使い切れずに1,000m余してゴール。時刻は19時40分、日没30分前。

やった！まさかゴールできるとは。穏やかな南西風の中、ゴールランディングにアプローチ。フレアがきれいに

決まって、思わず声が出た。14人目のゴールだった。

フライト距離としてはテイクオフから直線距離393km、フライト時間7時間15分。ここまで飛べるとは思っていなかったが、単独フライトになったことで(レース競技には加われなかった反面)プッシュしすぎることなく自分のペースを気象条件に合わせることに専念し、結果的にそれが上手くいってこの記録につながったと思う。一方で上位ゴール者とは平均時速で格段の差があり、同じ気象条件でももっとフライト効率を上げれば更に距離が伸ばせる、という可能性も感じた。

「地形に縛られずサーマルの続く限りどこまでも飛んで行く」というフラットランドの飛びに惹かれ、毎年Forbesに行くようになって今年で5年目。記録はできたが、まだ知らないこと・できないことばかりで、楽しみも可能性も尽きない。

最後に、エアロトローイングをはじめ大会参加の準備でお世話になった方々、これまでフォースで共に飛んだ仲間たち、また日本記録申請に当たってサポートいただいた方々にお礼申し上げます。



他の日のフォースゴールでの服部良亮さん。HG歴16年、HGシリーズ2017年ランキング17位。



今回の大会の練習日。フラットランドの飛びに惹かれ5年目のフォース。



393km飛行のランディング。(Oliver Chitty選手撮影、Youtube動画から)

■アジア競技大会日本代表選手団

今年8月18日(土)から9月2日(日)まで、インドネシアのジャカルタで、『2018アジア競技大会』が開催されます。アジアのオリンピックといわれるこの大会で、今回パラグライディング競技(クロスカントリーとアキュラシー)が行われることに。JHFは日本代表選手団(下記)を选考し日本航空協会に推薦を依頼しました。

監督:岡芳樹 男子選手:岩崎拓夫、呉本圭樹、上山太郎、廣川靖晃、中川喜昭 女子選手:平木啓子、望月奈緒、山下敦子

■福井国体デモスポPG大会

『福井しあわせ元気国体2018』のデモスポとして、9月1日(土)、パラグライディング大会がスキージャム勝山エリアで開催されます。

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー(補助動力技能証/MPG技能証課程)]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、パラグライディング教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにしてください。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひ。

価格・申込方法:

頒布価格1,000円(送料別)。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作で

上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を14台保有し、フ라이어会員に貸し出しをしています。ご希望の方は下記の「JHF備品を貸し出ししています」に沿ってお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります(1年以下の懲役または100万円以下の罰金)。うっかり忘れていたということのないようお願いします。

の動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法:

頒布価格それぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえ手続きください。

■JHF備品を貸し出ししています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所を変更したらお知らせください

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。

フ라이어会員No./お名前/変更後のご住所/連絡先電話番号/メールアドレス

会費を銀行口座振替・コンビニ送金される場合、銀行等から新住所の連絡はありません。

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail: info@jhf.hangpara.or.jp

http://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートにはチェック5タグ1枚と結束バンド2本のセット、賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県在住の方には、県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行(銀行コード0005)

巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート222号

発行日:2018年(平成30年)7月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社サンライズ